

環境とサステナビリティに対応する新10号館

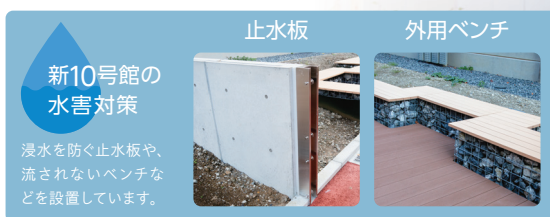
6つの学科*が共生する新たな研究室と実験室を擁する新10号館。世田谷キャンパスは自然的景観を維持するための風致地区にあり、敷地面積に対して緑化率は30.8%と高く設定しています。隣接する9号館の間には、地域住民の散歩や通勤・通学、災害時の避難路となる回遊動線を設け、地域に開かれた緑豊かなキャンパスとなりました。またサステナビリティに対応するため、1教員あたりの基準面積を81.25㎡とし、研究室の空間をユニット化。研究室の入れ替え、更新にも対応しやすい構造となっています。

※6つの学科＝機械工学科、機械システム工学科、電気電子通信工学科、原子力安全工学科、都市工学科、知能情報工学科



数年後には桜のトンネルに！10号館外通路

10号館外通路は明るいレンガ色で色分けし、北門から10号館まで南北に貫いて地域周辺を効率よく移動できるよう回遊動線として開放します。地域の方も利用できる通りには、2023年11月に桜を植林し、数年後には桜のトンネルが楽しめそうです。また、通路の出入口には浸水災害を防ぐ水門も設置されています。



細部にも工夫が盛り沢山

学生、教員が快適に過ごせるようにと、細かい工夫とアイデアを数多く採用。その一部を紹介していきます。



ラウンジのらせん階段

1、2階の中央ラウンジには、エレベーターを使わずに移動できる、エコでスペースを有効活用したらせん階段を設けています。

各階
屋外ラウンジ

各階の南北にはベンチを設置。他学科の交流の場にもなっています。



1F外廊下

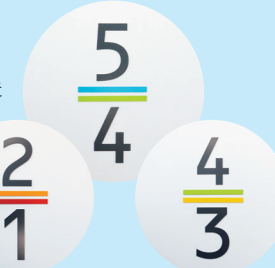
屋上まで伸びるダクト管

新10号館ではダクトを建物外周部に設置し、各階のダクトをつないで屋上へ効率よく換気しています。下層階では細く、上層階になるにつれ、太くなっているのも特徴的です。

階段踊り場

各階のカラーサイン

各階を色分けで表示。空に近い5階は青。1階は赤と、下に行くに従い、土に近い色へと、自然環境に近い色分けがされています。



5F 外廊下の天井

見張りのフクロウ

5階の天井部には、鳥が巣を張らないよう、見張り役として模型のフクロウを設置しています。